

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成24年10月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670300971号
法人名	なごみ福祉会
事業所名	グループホーム青い鳥
所在地	鹿児島県鹿屋市古江市796-1 (電話) 0994-46-3056
自己評価作成日	平成24年9月

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、音声にあわせてリハビリ体操とタオル体操を行ない、日中はゆっくり数を数えながら手足を動かすスロー体操で筋力強化を図っている。また音楽に合わせたリズム体操や日替わりレクリエーション、外気浴の出来る散歩等で、利用者の身体機能の維持を図っている。様々な体操を継続し目標としている転倒事故0を目指す。今年度に事故発生はありません。

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年10月25日

鹿屋市郊外、潮の香りが漂う古江の港町に立地し、他にも同敷地内にデイサービスと有料老人ホームを運営して地域の高齢者福祉の一端を担っている。
身体機能低下予防のためのさまざまな筋力トレーニングを日課に取り入れ、利用者の身体機能の維持を図っている。
利用者の思いや希望が叶えられるように介護計画の課題とし、墓参り、日課にしている散歩、寺詣り、他県にいる子ども達との定期的な電話、併設のデイサービスを利用する家族との時間、自宅訪問など生き甲斐や楽しみに繋がるようにケアプランに取り入れて支援している。
排せつの自立に向けた支援にも力を入れており、排せつチェック表を作成して個々のパターンを把握し、入居時おむつ使用だった利用者もトイレでの排せつや自立に向けた支援を行って改善に至っている。現在、ほとんどの利用者が日中は布パンツのみで過ごしており、生活レベルの向上にも繋がっている。
食材をふんだんに使った食事は利用者の楽しみでもあり、ときには漁港町らしく刺身も食卓に並ぶ。おやつや誕生日のケーキなども職員手作りで毎回趣向を凝らして利用者に喜んでもらっている。栄養バランスが良く、入居後に髪が増えたり髪の色が黒くなってきた利用者もいる。
家族からの評価も大変良く、理念に謳っている「生き甲斐のある毎日」の実現のために質の高いサービスの提供がなされている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域の中で人と人とのふれあいをもとに生き甲斐のある毎日を遅れるようにサポートします」を理念とし管理者、職員は利用者と共に計画的に取り組んでいます。	昨年、職員全員で話し合って、これまでの理念を更に具体化したものに見直している。理念はホール、台所と職員が目につきやすい箇所に掲示して理念に沿ったケアの実践に繋げている。また、理念とは別に職員個々の目標も設定している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩で地域の方々と言葉を交す、交流会に参加していただく、町内会の夏祭りに参加する。又保育園児との七夕交流、お遊戯会、運動会の見学等交流の場を広めている。	町内会に加入し、夏祭り、運動会見学に出かけている。また、船間地区の方々と交流会も行っている。近くの保育園とは互いに行き来して交流が行われており、利用者の楽しみな時間になっている。ホームに看護師資格を持つ職員もあり、近隣で緊急を要する出来事が発生した場合の協力場所としての対応もしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設長が認知症キャラバンメイトとなり活動、認知症勉強会を町内会の方々に向け行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第三者の立場から良いアドバイスをもらえる会議なのでサービス提供の改善に役立っている。又必要に応じて出席者を変更し次の事業展開につないでいる。	町内会長・民生委員・保育園長・消防団長・市議会議員・家族代表・行政などの幅広い参加者を得て2ヵ月に1回開催している。入居状況、機能評価、感染症、安全対策、行事などさまざまな議題で話し合いが行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業を運営する上で疑問に思うことがあれば確実な回答を頂ける場所と考え、優先して市に相談しアドバイスを頂いている。	機会を捉えては相談など行い、積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。また、市・県より高齢のお祝いに訪れることもある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	サービスの指定基準について理解した上で、利用者の身体に危険が及ぶ可能性がある場合、家族の同意を得て時間的に施錠。又車椅子からの転落の可能性がある為拘束帯を使用している。	現在、家族の同意を得て転落の危険性がある利用者への拘束帯を使用する事例があるが、定期的に職員会議の中で検討（会議）を行っている。日中は施錠などせず、職員の見守りで安全で自由な暮らしを支援している。また、すぐ近くの交番には安全対策として協力の要請を行っている。	拘束について契約書9条の利用者及び利用者代理人の権利の一つとして文言が謳ってあるが、具体的な内容を明記することが望ましい。また、拘束についての検討会議も今後は瀬回に行い、日々の経過記録も密にとるような業務改善に期待したい
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待と身体拘束について7月研修へ2名参加、8月の職員会議にて報告する。新人職員を含む全員が虐待や身体拘束のおきないオープンな環境を作り防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、内部研修を計画し包括支援センター職員に講義依頼しているが現在のところ未定です。公的な研修があれば参加したいと思います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所手続きの際、施設利用に關しての重要事項説明等を行い、疑問点はないか確認している。納得の上契約にサイン、押印して頂く。改定等に関しては来所時に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に來られた際、職員に意見や要望を言われたことを、管理者が確認した上で改善することがある。又、玄関に意見箱を設置している。家族会の時アンケートを取りそれについてその場で意見を聞く。職員会にて報告して改善につなぐ。	利用料を持参払いにしているために毎月1回は必ず、ホームに足を運んでもらえるようにしている。他にも日常の面会時や電話連絡の際に家族からの意見・要望を聞き出すようにしている。年1回行われている家族会は、ほとんどの家族の出席を得られておりアンケートもとっている。出された意見、改善点などは職員全員で話し合っ、今後の運営やサービスの質の向上に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会ではお互いに意見交換し合い、改善すべきことはみんなで話し合い同意の上取り入れていく。又、職員が気付いた事や意見はいつでも管理者に話せる体制をとっている。	毎月、全員参加で職員会議を行い、意見交換を行っている。また、年2回職員向けアンケート及び個人目標を設定させており、職員の思いや仕事に対する意識を確認する機会となっている。アンケートには働きやすい職場となるような改善点についても項目を設定して職員が表しやすいように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力、努力、意欲等把握している。個人差はあるが向上心を持ち仕事に取り組んでもらえるよう労働条件等を改善の上、全体の底上げしたいと思う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	<p>新人職員は勤務しながら基本を学べるよう管理者が指導する。また職員はゆとりのある時、同系列の施設に研修に行くこともある。まずは職員の定着を図りたいと思う。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会の研修やイベントに参加してもらい、同業者と交友関係を深められるようにしている。又分からないことがあれば相談し意見を仰いでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人ひとりが入所者と言葉を交わし顔を覚えていただく。その後担当制にし何でも話し合える環境にして安心した生活が送れるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ゆっくりと居室で説明し本人家族の疑問や不安感に対応している。面会時は居室でお茶を飲んでくつろげるよう配慮し、困っている事等ないか聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時何が問題となっているか良く聞き、必要なサービスが提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ・野菜の下こしらえ・掃除等、出来る事は手伝って頂き出来ない方の洗濯たたみ等やっってもらおうお互いに感謝の気持ちは忘れずお礼を言うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活に変化があれば報告しアドバイスを受けたり、協議の上問題解決している。又必要に応じて面会や電話をかけてもらう等双方で生活支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人近所のなじみ深い方々に施設に来て頂き、面会時は居室でゆっくりくつろげる様に配慮している。次回の面会をお願いして見送る。年1回の家族会への同席も可能。	本人の希望による墓参りや寺詣り、隣接のデイサービスを利用している家族と過ごす時間をケアプランに取り入れて支援している利用者もいる。また、友人知人が訪ねやすい雰囲気にも配慮して、なじみの人や場との関係継続の支援に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに気の合う方と隣席を設け一緒に散歩に出かける等配慮している。又全員でゲームを行なうことで仲間意識が生まれ連帯感が保てている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や死亡された方の家族の心情を察し電話にて近況等聞いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活習慣のこだわりや生活パターンを聞き、継続できることは本人に任せている。集団生活で出来ない事もあるので無理強いないように注意している。	ほとんどの利用者とは口頭での意思疎通が図れるため日々の会話や関わりで思いや意向の把握に努めている。個々の生活習慣や過ごし方は他の利用者に迷惑にならない限り、本人の希望に沿ったなじみの暮らしが出来るように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃の仕事や家族の事について聞き生活歴や価値観の違いについて把握する。又今までの暮らしを忘れないように時々話を聞いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活習慣や心身状態の変化について、情報を共有し職員全員が把握できるように申し送りと連絡ノートを活用している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者を職員の担当制にし気付いたことを職員会等で話し合いプランの変更やサービス提供につないでいる。	入居時に好きな事や暮らし方の希望などを聞き取り、本人本位の介護計画を作成している。墓参りや自宅訪問、毎日の散歩、他県にいる子どもとの電話での会話、家族と過ごせる時間など本人の希望をニーズとして支援できるように個別性のある介護計画が作成されている。必要に応じて随時見直しを行い、変化がなくても定期的な見直しを6ヵ月ごとに行って、現状に即した介護計画を作成している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護日誌、個人記録に記載され職員間で情報を共有している。変化や気付きは介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が抱えるニーズに対し柔軟な支援が提供出来るよう、職員を増員する等の配慮を行ない取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園での花見、海への散歩、学校や保育園等、多くの人達とのふれあいで生活に変化と楽しみが得られるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受ける方5名と病院受診の方に分かれているが、それぞれ納得の行くかかりつけ医を選んでいる。病院受診は職員、家族が行なう。	本人、家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診については本人・家族の状況に応じてホームより柔軟に支援している。受診後は随時結果を報告している。また、薬は薬局より直接届けられるため、処方などの間違いがない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は気になる事があれば看護師に相談し支持を受けたり、受診時は看護師が状況をメモし連携している。薬も看護師が振り分け間違いがないようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	通院介助の際、病院関係者と蜜に情報交換し、入院したら病状、生活状況を情報提供書にまとめ渡す。面会時、病状を聞き退院後も細かい変化を相談できるように看護師と関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応には限界がある旨伝えている。ある程度まではホームで介助できるが、以降は設備や看護師が常在籍していない為対応は困難である。しかし今後は訪問看護事業所との連携を図りある程度対応出来るよう考えている。	入居時に緊急時及び重度化・看取りの対応についてホームの方針を説明している。入居後は身体状況に応じて医師の指示のもと、方向性を話し合っってホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。次年度に向けて重度化・看取りについての指針の作成に取り組んでいる最中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の初期対応や応急手当に関し、5名の職員は訓練を受けたが新人への訓練が出来ていない為、研修案内を待っている状況です。（全員）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災と地震については毎月職員会時に交代で訓練している。津波については外に出るまでは火災と同様で右道路から一揆に高台に上がるルートをマニュアルに載せる。	年2回、定期的な避難訓練と毎月自主訓練も行っている。避難訓練には地元消防団の方々の参加も得られている。桜島爆発に伴う津波についての避難体制は運営推進会議でも議題として取り上げられており、協力体制が話し合われている。スプリンクラー、自家発電も設置され、備蓄も確保されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみやすい言葉で気分を害する事のないように配慮している。特に認知症状が強く出ている時は気持ちに沿い興奮させないように声かけしている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねないような声かけや対応に配慮している。本人が慣れ親しんだ呼び名の使用についても家族の同意を得ながら行っている。また、日常の業務で気づいたことは職員間で注意し合うなど、職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを主張できる様に担当を決め、なじみの関係を築いている。又すべての事について強制せず、あせらず、ゆっくり自分の思うように動いてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが強制せずその人のペースで過ごしてもらっている散歩・昼寝も希望に応じている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	お気に入りの服をいつでも清潔に着れる様に洗濯、栄養クリームで肌の手入れ等おしゃれできるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物を食べやすく調理し、音楽を聴きながら楽しい食事時間となっている。片付けられる方には手伝ってもらいお盆拭き等もして頂く。	食材をふんだんに使った栄養バランスの良い食事で、漁師町のため、ときには新鮮な刺身が食卓にあがることもある。また、おやつは職員手作りで毎回趣向を凝らしている。気候のいい時期には近くの公園でお弁当を楽しんだり、おやつ持参でバラ園・コスモス見学に出かけることもある。また、ホームの行事の際はバイキング料理にしたり、誕生日には職員手作りのケーキでお祝いして「食」を楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面を考慮し主食、副食、副菜、水分等バランスよく摂取でき、個人に合わせた調理法や量も決めている。食事する時の姿勢を調整、一部介助して十分な栄養が摂れる様に配慮。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回必ず歯磨きしていただき清潔にしている。1名は職員が磨いている。歯磨きの習慣がなかった方も自主的に磨かれるようになった。現在口腔トラブルなし。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中リハビリパンツ使用1名、布パンツと尿とり2名、定期誘導するため衛生品の使用は少なくなってきた。拭き取りの出来なかった方も自分で出来るよう促している。	排せつチェック表を作成し、個々の排せつパターンを把握してタイミングと声かけ誘導で日中はトイレでの排せつを支援している。また、入居後に改善された利用者も多く、ほとんどの利用者が日中は布パンツで過ごしている。夜間のみ使用しているポータブルトイレは可愛い布で覆って居室のインテリアのように工夫されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認を毎朝行い、職員全員が個々の習慣を把握している。野菜を多く取り入れた食事と水分摂取でコントロールしたり体操をする。便秘薬で調整。服薬拒否者にはお茶に混ぜる水薬を使用。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの希望には答えられないが決められた日の入る順番は希望に応じ、一人ひとりに必要な介助を行い、リラックスタイムとなっている。	基本的には一日おきであるが利用者の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。入浴しない日は足浴を行っている。自立している利用者もあり、職員の見守りで安全に安心して入浴してもらっている。風呂水は蒸留水を使用しているため、皮膚へのダメージも少ない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の計画は組んであるが、ゆっくり横になりたい時は室内温度を調整し休んでもらっている。夜間も個人に合わせた温度に調整し良眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の用法や用量については理解しているが副作用に関しては充分でないと思う。体重減少や強い副作用等の薬については最初で伝達し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の下ごしらえ、お茶碗洗い、台ふき、掃除を行なう。洗濯物はたためない方の分を出来る人が手伝う。気分転換に散歩やレクリエーションを毎日工夫して楽しく過ごしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には散歩コースを海岸、魚市場、お寺、公園にして、その日の気分で入所者が決めている。又近くのお墓参りは職員が同行し遠くは家族に頼んでいる。	日常的にはホーム周辺を散歩して地域の方々と挨拶を交わし、気候のいい時期は（お）弁当持参で近くの公園に出かけたり、桜、紫陽花、バラ園、コスモス見学にも出かけている。他にも初詣や地域行事、保育園行事見学にも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>所持金は希望者のみ渡してある。買い物ツアーの日は自分で好きな買い物が出来るように支援する。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>帰宅願望が強かったり落ち着きがなく不穏状態にある場合、家族に電話かけ話して頂く。通常でも電話で語ることで穏やかに過ごして頂くこともある。手紙を書く機会はなくなった。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>時間によってはトイレ2つが込み合う事もあるので、職員トイレを解放して混乱を防いでいる。食堂や洗面所には季節の花を飾り、癒やしの空間になっている。玄関はさわやかな香り、浴室も常に清潔。</p>	<p>共用空間は食事のダイニングとテレビがあるくつろぎのスペースに分けて生活にメリハリができるように工夫されている。冬場の乾燥対策として洗濯物を廊下の手すりに干すなど工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>構造的に共用空間の中で一人で過ごせるほどのスペースはないが、気のあった利用者同士おしゃべりできるよう席替える。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏はグリーンカーテンで涼を得る。ベッドの位置は利用者の身体機能に合わせた場所に置きかえるが、使い慣れた家具や家族の写真、仏壇等を飾り居心地の良い居室になっている。	イス、タンス、位牌、家族の写真、誕生日に家族から送られた祝い電報付きのぬいぐるみなどが飾られて居心地良く過ごせるように工夫されている。冬場の乾燥対策として水の入ったペットボトルを鉢の代わりにし、花をさして飾るなどの工夫もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立出来るように手すり設置箇所を増やし必要な方には移動バーを設置し安全に過ごせるようにしている。	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム青い鳥

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない